

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	10
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	4
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1473600425
法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所名	グループホーム風の生活館
訪問調査日	令和4年10月3日
評価確定日	令和4年10月25日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

#### ○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473600425	事業の開始年月日	平成13年3月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	社会福祉法人 秀峰会		
事業所名	グループホーム 風の生活館		
所在地	( 245-0016 ) 横浜市泉区和泉町5932-3		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	令和4年9月23日	評価結果 市町村受理日	令和4年10月29日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かで家庭的な雰囲気のもと、入居者の方々が毎日生き生きと生活出来るよう、入居者本位のサービス提供を心掛けています。日々、地域の方々のご理解とご支援を頂きながら、職員一人ひとりが法人理念を継承する意識を持ち、日々の活動に励んでいます。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023横浜市中区山下町74-1大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和4年10月3日	評価機関 評価決定日	令和4年10月25日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は、社会福祉法人秀峰会の経営です。同法人は「天に星、地に花、人に愛」をテーマとし、横浜市を中心に、介護・医療・保育・障害者支援など福祉全般に渡る160以上の事業所を展開しています。2019年には、ハノイ事務所を開設し、技能研修生の受け入れも積極的に行っています。ここ「風の生活館」でもベトナム研修生を一名受け入れています。グループホーム部門では、9事業所を運営し、「風の生活館」は、開設後22年目を迎える歴史ある事業所です。1階が通所部門で2階が1ユニットの併設型のグループホームになっています。事業所は庭が広く、季節の野菜や四季の花が栽培され、さらには大きな河津桜もあり、2階のテラスからは富士山を眺望できる環境に恵まれた立地です。立地は地下鉄「立場駅」から徒歩で15分程の所にあります。

●法人の理念や方針を記載したクレド「羅針盤」は、全職員に配付されていますが、昨年4月に赴任されたホーム長は、毎朝の申送り時に職員を指名し、指名された職員は羅針盤の一節を読み上げ、全員が起立した状態で聞き、理念・方針を再確認した上で、その日の仕事に臨みながら、理念・方針に則したケアの実践に努めています。

●ホーム長は、利用者の状況を説明するには、文章より映像の方が分かりやすいとのコンセプトから、リビングから居室への通路の壁を「風館写真館」と名付け、額縁入りの利用者の活動状況の大きな写真を掲示し、反対側の壁には週1~2回、職員が独自のメニューで作る料理の写真を飾り、家族や利用者が楽しめるよう工夫しています。また、家族へのお便りも写真を添えたり、年2回発行している「風館通信」にも写真を多く載せることで、利用者の日常が見えるように伝えています。また、コロナ禍でも通所部門の車を借りて、天気の良い日などは、近隣の公園やコンビニへの買い物のドライブは、利用者が開放感を味わう機会となっています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム風の生活館
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・法人の理念を記載した「羅針盤」を日々の申送りの際に提唱し、地域に根ざしたサービスに照らし合わせて話し合う事で理念をより身近に反映できるように努めている。	法人の理念や方針を記載した「羅針盤」を全職員に配布し、ホーム長は1日の始まりの申送りで、毎日違った職員に羅針盤の中から指名した職員に一節を発表させ、介護サービスの指針を再認識する機会としています。また、読み上げた一節をその日の日常介護サービス活動に反映できるよう取り組んでいます。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・近隣の商店街に職員と共に行き、買い物をしたり、商店の方に訪問販売にお越し頂いたり交流の機会を設けている。又、自治会が開催する夏祭りや防災訓練に参加し利用者が地域の一人として関わって頂けるように努めている。(コロナ禍前)	コロナ禍のため、地域との交流が制限されていますが、今年の正月行事「せいと」(どんど焼き)には、利用者と職員で参加し、自治会の排水溝の大掃除にも参加しました。「せいと」には、ベトナム研修生も一緒だったこともあり、地域情報紙に載りました。コロナの収束と共に地域交流の再開が期待されます。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・毎年、近隣ケアプラザの「介護者施設見学会」の受入れを行い、担当職員がホームの概要を説明すると共に質問をお受けしている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月毎に会議を設置して情報交換を行っている。自治会での行事に参加させて頂く事は基より、事業所の行事や研修に興味を持たれ参加下さる関係性が出来きている。又参加家族から現状に対する感想を述べて頂いている。(現在書面にて実施)	地域の自治会とは、古くからの関係性を維持しており、2ヶ月毎の運営推進会議にも、自治会長に参加いただいていた。現在は、コロナ禍のため、書面開催ですが、自治会長や包括支援センターからは、書面の報告に対するコメントをいただき、運営やサービスの参考にしています。家族からも現状への感想・意見などもいただいています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議には、地域包括支援センターの職員に参加して頂き、現状の報告を行い意見等の協力を頂いている。	行政とは、横浜市や泉区より、メールなどでコロナ情報を受け取っています。所管の地域ケアプラザの包括支援センターの職員には、運営推進会議に参加いただいています。ケアプラザからの要請で、ホーム長が講師として認知症に関する講義を行ったこともあります。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・利用者の危険回避の意味合いでエレベータは暗証番号での解除となっているが、身体拘束委員会を設け身体的、精神的にご本人の意思を尊重した拘束をしないケアを実施するように努めている。	身体拘束拘束適正化の指針は、リビングへの通路の壁に掲示するなど、職員が日頃から意識してケアに臨むようにしています。身体拘束・虐待防止の委員会も3ヶ月に1回開催し、事例などの勉強会を行い、身体的・精神的に利用者の意思を尊重し、拘束をしないケアの実施に取り組んでいます。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・法人内外の研修に積極的に参加する機会を設け、事業所でも年1回の研修を実施している。また申送り時に事例が提供された際には職員間で相互で注意できるような職場作りに努めている。	身体拘束防止委員会と同時に虐待防止委員会も開催しています。法人内外の虐待に関する研修には積極的に参加する機会を設け、法人の理念「人間が主体である」を意識しています。申送り時に言葉使いなどの事例が提供された際には、職員間で相互に注意できる職場作りに取り組んでいます。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・法人内外の研修等に積極的に参加する機会を設け、事業所内での周知に努めている。また利用者の状況に応じて「安心センター」の利用や「成年後見制度」の利用を提案し活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約と解約に携わる職員は知識をしっかりと持ち些細な事柄でもご家族からの質問を受け理解して頂けるように説明を行っている。又、家族会では、毎回テーマも決め実施し理解を深めて頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ホーム各階の入り口に「ご意見箱」を設置している。又、面会時や家族会の場でご意向を伺い運営に反映させている。	現在コロナ禍の下、面会は制限されていますが、電話連絡にての状況報告・要望把握を行い、運営に反映させています。家族会も年1回クリスマス会を兼ねて行われていましたが、ここ2年は、コロナで書面での報告に留まっています。毎月の家族へのお便りも写真を添え、居宅担当とホーム長のコメントを入れています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・ミーティングや各カンファレンスで提案された事柄を管理者が必要に応じて、事業部長に報告・相談を行い業務改善に反映させている。	日頃からホーム長の在席場所は、仕切りのないオープンな場所になっていて、日常業務中に意見交換できる環境にあります。ユニット会議や正職員会議などで職員からの意見や提案は、毎月開催されるホーム長会議の議題に上げ、本部の事業部長と直接相談するなどして、業務改善に反映させています。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・半期に1度面談を実施し、職場状況や条件について意見を求め、個々に目標を設定し目標に対する評価と新たな半期の目標を設定し目標が達成できるよう努めている。又、必要時応じ面談を実施し普段から職員個々と話す機会を設けている。	半期に一度、全職員が個々に目標を設定し、半年後に達成度の評価と新たな半期の目標設定をする人事考課制度があり、その際ホーム長は全職員と面談を行い、「出航の誓い」と呼ばれる）職場環境についても意見を求めています。必要に応じて随時職員との面談を実施している他、日常的にも職員と話す機会を設けています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員個々の能力や興味のある法人内外の研修等の参加を促している。又、月に1度実施している事業所研修・訓練では職員の経験や参加した研修の内容を発表する場を設けスキルアップに努めている。	毎月法人の9グループホームのホーム長が順番に講師役を務める法人研修には、研修内容に応じて参加職員を選任して研修参加を促しています。毎月行われる事業所研修には、法人研修を受講した職員が研修内容を発表する場を設けることで、情報共有のみならず、更に研修内容を深く理解できるメリットがあります。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・法人内で事業部研修を行い、相互のサービスの質の向上に取り組んでいる。又、横浜市グループホーム連絡会のブロック会や研修に参加をそ同業者との交流を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居以前の情報を元にしなが、本人の身体状況等をホーム側で独自に把握するように努め、ご本人が不安に感じられている事を安心して話していただけるように働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居の相談を頂いた段階から、困っている事柄をお聞きして、ホームへの入居に伴う不安等にも視野を広くもってお応えできるように努めている。 又、待機者ご家族へホームの通信を郵送や行事のお誘いをしたり、入居前から交流を持ち信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居に伴う優先課題が何であるか見極めご家族と共に利用者支援する体制を整え必要に応じ他サービスの提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・グループホームを利用者にとっての生活の場として認識して頂けるように努め、個々の残存能力を見極め出来る事は利用者本人に行って頂けるよう支援し、職員はそれを支える関係性を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・毎月のお手紙や通信にて日々のご様子をお伝えすると共に行事のお誘いをしたり、日用品の購入をお願いしたり、ホーム内外で利用者と過ごす時間を増やして頂けるよう努め、ご家族と共に利用者支援する体制を築いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・本人が安心した生活が継続できるように、家族は元より親族の方や近隣の方との交流が途切れないよう支援に努めている。電話の利用・手紙の取次ぎ支援を行っている。	感染症拡大防止のため、家族との面会回数や時間を制限していますが、家族は元より、親族・友達や近隣の方との交流が途切れないよう、電話や手紙による支援は継続して行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者個々の趣味・嗜好も把握しながら、共有のスペースにて相互に関わり合いをもてるように環境と場面を提供し支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去後の方向性等について相談があった際には可能な限りに支援をし退去後も次の施設で順応できているかの確認を行っている。又、ご逝去された利用者ご家族がボランティアとして活躍くださったり、入居の紹介を頂く等の関係の継続がある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・本人を取り巻く様々な環境の中で、主体はあくまでも利用者本人である事を随時確認しながら困難事例を検討している。	利用者を取り巻く様々な環境の中で、主体はあくまでも利用者本人であることを随時確認しながら本人の思いや意向の把握に取り組んでいます。事業所では週に1～2回職員が持ち回りで独自のメニューにて昼食を調理しており、その際に利用者の意向・好みなども組み込んでいます。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居の相談があった際に、利用者及びご家族から可能な限りの情報を頂き把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・利用者個々の心身の状況の変化に気づきを持ち、申し送りにて周知を図り現状の把握に努めている。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・毎月のケースカンファレンスの実施と平成30年度から家族参加カンファレンスを1年に1回程度設け、本人と家族からモニタリングした情報を元に個々の方の嗜好に合わせたサービスが提供できるように話し合いを行い、介護計画書に反映させて作成している。	介護計画は、4ヶ月に1回見直しを行っています。毎月のケースカンファレンスでのモニタリング結果や利用者本人や居室担当の意見を聞いたうえで、家族にも手紙や電話にて意向を確認しています。必要に応じて、主治医や看護師の意見も反映させながら、介護計画を更新・作成しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の言動や心身の変化等を個別に記録して職員間で情報共有しており、毎月のケースカンファレンスの際に具体的なケアとして実践できるように介護計画書の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・利用者個々に発生する多様なニーズに対してどのようなサービス提供が適切であるかを検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域主催の行事への参加やケアプラザ（ふれあい喫茶・お祭り）等を活用し安全を確保しながら個々の方が生活を楽しめるように工夫して支援に努めている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・利用者個々の身体的な状況と家族の状況を伺いながら、希望に応じて法人内クリニックの訪問診療を提案させて頂いている。専門科の受診については情報の提供と可能な支援を行う事で適切な医療が受けられるように支援を行っている。	法人内のクリニックを協力医として、毎月2回の往診を受診しています。同じクリニックの看護師は、毎週1回来て利用者の健康管理を行っています。法人内の歯科医、訪問マッサージも毎月1回来て、希望者に対応しています。専門医の受診が必要な場合、情報提供と可能な支援を行い、適切な医療が受けられるよう支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・医療体制加算を算定している。週1回の看護師訪問の際に利用者の身体の変化等の情報を伝えて必要時には医師の指示を仰ぎながら対応を行い利用者を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・利用者が入院した際は速やかに病院の担当者と連絡をとり必要な情報を伝えている。また、予後について話し合いをする機会を設けていると共に、退院については家族と地域医療連携室と相談している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化した場合の対応について、入居契約時に説明をすると共に、終末期をどのような形で受け入れていくかを利用者の心身の状況の変化に添って、随時、家族と話し合う機会を設けている。関係医療機関と連携を取りカンファレンスを通して職員と情報共有を行いながら利用者を支援している。	入居時に「重度化した場合の指針」について十分に説明し、同意を取り交わしています。利用者が終末期を迎えた場合には、医療機関も交えて家族との話し合いの場を設け方針を決定し、医療機関と連携を取り、カンファレンスを通じて職員間で情報を共有しながら支援を行うとしています。コロナ禍の現状でも、終末期には面会制限はせず、付き添いの為の宿泊も可能としています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・毎月行っている職員全体ミーティング等で確認すると共に提携医療機関の緊急時対応チャートを活用し、定期的に事業所研修を行い周知している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・地域と防災協定を結んでおり、避難訓練への参加を地域の方に依頼している。又、運営推進会議を通して自治会との相互協力の形等の話しをしている。	現在は、コロナ禍のため、地域との防災協力はありませんが、年2回の避難訓練(日中と夜間に分け)に加え、業者による消火器取扱い訓練も実施しています。訓練の他にも、年2回の防災関連に関する勉強会も行い、知識を深めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・法人の理念が記載されている「羅針盤」にも利用者への対応方法が明記されており、事業部として具体的な事例を挙げて研修している。	利用者を取り巻く様々な環境の中で、主体はあくまで利用者本人であることを、朝の送りの「羅針盤」読み上げの中でも確認しています。忙しい時ほど、言葉遣いが雑にならないよう互いに声をかけ合いながら、利用者の尊厳や誇りを損なわぬよう注意を払っています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日常の様々な場面で、傾聴する時間を多く持つように努め、ご自身の意思で物事が決定できるように一人一人に合わせた言葉を選び促し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・生活リズムに配慮しながら、利用者個々のその日の心身状態に合せられるよう柔軟な支援を心がけている。その方のペースに合わせ待つケアを重視している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・個々の好み等を把握しながら、個性が尊重されるような衣類の調整も含めて整容を支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・オルゴール系の音楽を流し楽しい雰囲気作りを心がけている。又、利用者の意思を確認しながら準備や後片付けに関わって頂ける様に支援を行っている。	食事のメニューと食材の手配は業者に委託していますが、週1~2回は、職員が順番に利用者の意見・要望を取り入れた独自の昼食を提供しています。利用者の出身地の郷土料理を提供することもあります。回転ずしのチェーン店が近くに開店し、行事の時に寿司の取り寄せたり、誕生日には手作りのケーキを提供し、皆でお祝いしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事量や水分摂取量については、おおまかに把握しており、主治医から指示があった方に関しては管理を行っている。又、嚥下に支障がある方にはミキサー食の提供やとろみ剤等で調整して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、口腔ケアの声かけを行い、介助の必要な方には、個人の能力に応じた支援を行ない口腔内の清潔を保つよう努めている。治療が必要な方については、訪問歯科の利用を支援しており、指導の下で口腔ケアの介助を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・利用者個々の排泄パターンに合わせて定時での誘導や随時の誘導を行い、オムツの使用についても個々の身体状況に合わせて検討している。	排泄チェック表は、ICT化され、パソコン(iPad)で管理しています。利用者個々の排泄パターンに合わせる定時のトイレ誘導や利用者の表情や仕草を観察して都度の誘導を行い、トイレでの排泄につなげるよう支援しています。オムツの使用については、利用者の身体状況に合わせて対応しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・利用者個々の排泄パターンを把握する為にチェック表を活用している。又、便秘薬に頼らず散歩の奨励や野菜ジュースや乳酸菌飲料等で予防できるように支援している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	・曜日や時間にとらわれず、可能な限り個人の希望や意向を尊重し体調に考慮しながら支援している。	週2回を基本とし、曜日や時間に捉われることなく、利用者の希望や意向を尊重した入浴支援を心がけています。拒否や体調が優れない場合には無理強いせず、日にちを変えるなどして対応しています。季節感を味わっていただけるよう、ゆず湯や菖蒲湯も行っています。お風呂は毎日沸かしており、便失禁などにも対応しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・日中に利用者の意思で居室で過ごされている方も居られるが、散歩や買い物に出掛けたり、レクリエーション・家事等日中の活動を通して個々の自主性を尊重し、生活リズムを整えられるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・利用者の薬説明書や診療記録を職員は都度確認を行い、目的に応じた服薬による心身の変化等を主治医や看護師に伝え、指示を仰ぎながら、服薬の効果や副作用の理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・利用者個々の趣味・特技を考慮しアクティビティに取り入れたり、一般的な家事作業（洗濯物畳み・掃除・針仕事・盛り付け）に関わって頂く事で役割を担い、張り合いを持って頂ける様に支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天気の良い日は近隣公園へや近隣のコンビニにおやつなどを買いに、利用者の希望に沿い職員・家族にも協力を得て散歩やドライブに出かけている。又、デイサービスの車両を借り少し遠方への外出を企画し実施している。	ホーム長が運転手となり、通所部門の車を借りて、天気の良い日は、近隣の公園やコンビニにおやつを買いに出掛けています。庭が広く、庭に出ることもあります。ベランダからの眺望も良く、富士山がくっきり見えることからベランダでの気分転換もできます。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・施設で管理をしているが、利用者の希望があればいつでも日用品や嗜好品等の買い物に出掛けられるように支援している。自己管理を規制せず、利用者や家族に理解頂ける管理方法を提示しながら、ご本人の希望に添った方法で支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話の希望があった際には随時、発着信の取次ぎを行い、手紙等の配達があった際には基本的にはご本人にお渡ししている。本人・家族の希望で携帯電話をお持ちの方も同様に発着信・充電、所在確認の支援をしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共有空間の装飾で季節を感じていただけるように工夫したり、食事時間にBGMを流すことで心地良い空間を提供できるように努めている。又、利用者同士の接触によるトラブルを回避して不快感なく過ごせるように配慮している。	リビングの壁には、利用者と共に手芸で作成した大きな布製のカレンダーを飾り、月や日にちを動かせることができるので、1年間使えます。リビングから居室への通路の両側は「風館写真館」と銘打って額縁入りの利用者の活動状況の写真と職員が調理した料理の写真が掲示されています。食事時間はBGMを流し、心地良い空間の提供に取り組んでいます。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・フロアに仕切りはないが、テーブル席やソファを配置し、利用者は思い思いの場所で過ごされている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・これまで愛用されていた家具・絵画等を持ち込まれたり、各居室内は利用者と家族の意向を尊重して居心地よい空間となるよう工夫している。	入居時に、これまで愛用された家具や備品などを持ち込み、居室での配置は、利用者と家族の意向を尊重して心地良く過ごせる空間作りをしていただいています。人によって様々な物を持ち込まれていますが、アルバムや仏壇を持込んでいる方もいます。写真館に掲示できない写真を利用し、各利用者のアルバムも作成し、家族の面会時にお見せしています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・自室やトイレ等の生活に必要な場所がわかり易いように表示を工夫している。		

## 目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム風の生活館

作成日

令和4年10月3日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害面の対応強化	災害に備え、避難訓練や机上での勉強会も含め、職員各人の意識を高めていく。	年2回の避難訓練及び、他3回以上、勉強会を含め広く知識を深める。(5回以上/年)	1年
2	49	コロナ渦で日常的な外出支援ができていない為、季節を感じにくくい	ホーム内外ともに、四季を肌で感じていただくこと。	ホーム内では季節折々の行事を企画し実施し、ホーム外は毎月デイ車両を借り、四季折々の景色や風を肌で感じていただく。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。